

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：12605

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23653285

研究課題名（和文） 海外からの児童・生徒の受け入れのための接続教育ネットワーク

研究課題名（英文） Global Network to Develop Curriculum Transition for Returnee Children

研究代表者

加藤 由香里 (KATO YUKARI)

東京農工大学・大学教育センター・准教授

研究者番号：90376848

研究成果の概要（和文）：

本研究では、外国人児童生徒および帰国児童生徒のための「教科指導」と「生活指導」のノウハウを収集・整理し、ネットワークを通じて情報提供する枠組みを提案した。このような世界中からアクセスできるデータベースを構築することで、担当する教員が、帰国・外国人児童・生徒の学習経験やカリキュラムの特徴を知り、それに合わせたリメディアル教育や接続教育を効果的に提案していくことができる。また、将来、帰国・外国人児童・生徒を受け入れる高等教育においても、初等・中等教育でのカリキュラムを理解することで、接続を重視した学習指導、教材開発が可能となる。

研究成果の概要（英文）：

This study proposed the frame work to exchange ideas related with living guidance and course instruction for educating returnee children. In use of this network, the teachers who teach returnee and international students in elementary and secondary education can easily access educational data and design remedial education for their students. The teachers in higher education can also use this network and develop transformative curriculum and instruction for diversity of learners.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：生活指導・生徒指導

キーワード：教師教育， 学習指導， 教材開発， 教育の情報共有

1. 研究開始当初の背景

2008年の文部科学省の調査によれば、初等・中等教育で日本語指導が必要な外国人児童生徒は、約28,000人に上り、また、海外からの帰国児童生徒は11,000人とされる。これらの児童・生徒は、日常会話は十分にできても、学年相当の学習言語が不足し、その結果、学級活動に参加できない場合が多い。しかし、ほとんどの学校では、受け入れ人数が5人未満と少数であるため、クラスを編成す

ることができず、その指導は担任教員や地域ボランティアに任せられている。そのため、受け入れ経験を持つ機関であっても、担任教員の人事異動や退職、対象児童・生徒の卒業により、苦勞して積み上げた指導法や教材が継続されにくい状況にある。したがって、帰国・外国人児童生徒を受け入れる度に、また新たに試行錯誤を繰り返しながら指導を進めていかなければならず、現場で大きな負担となっている。

2. 研究の目的

増加が著しい帰国・外国人児童生徒の状況にあわせた指導を行うには、個々の教員が行ってきた努力や工夫を共有化し、必要な教師に提供する仕組みが必要である。また、初等教育から高等教育までも範疇に入れた長期的な視点に立って、帰国・外国人児童生徒の指導のためのノウハウを収集・整理し、提供することも求められている。

(1) ネットワーク上で外国人児童生徒および帰国児童生徒への指導情報を整備し、公開することは、現在、児童・生徒の指導にかかわる教師に利用されるだけでなく、将来、受け入れる側に対しても適切な情報提供を行うことができる。つまり、高等教育関係者にとっても、帰国・外国人児童・生徒の特性や学習経験を知り、初等・中等教育でのカリキュラムとの接続を重視した学習指導、および教材開発が可能となる。

(2) 本研究では、現場の教師が実践的なノウハウを手軽に記録できることを重視し、ブログを用いたシステムを提案する。ブログでは文章の作成・編集・管理・閲覧が容易であり、ネットワークを解してエントリーを閲覧することもできる。また、コメントなどの機能により、投稿者と閲覧者のコミュニケーションも可能である。このようなブログと SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス) を組み合わせた WEB サイトを構築することにより、外国児童生徒や帰国児童生徒の適応教育のために個々の教員が行ってきた教育実践を努力や工夫を共有化し、必要な教師および地域ボランティアに提供する仕組みを提供する。

3. 研究の方法

教師連携を支援する SNS 構築に向けて、平成 23 年度は、海外日本語補習校と国内日本語学校での学習内容を比較し、その特徴を明らかにすることを試みた。カナダ・クイーンズ大学を訪問し、国際理解教育、日本語教育についての情報収集を行った。

平成 24 年度は、日本とフィリピンで日本語教育にかかわる関係者で授業研究を行い、および他教科の指導視点の相違を明らかにした。また、構築した SNS のユーザビリティについても調査を行い、今後も、システムを継続的に改良していく。

4. 研究成果

最終年度は、教師連携をすすめるため SNS 構築の利用者を広く募るとともに、利用者間の情報交流をさらにすすめるため、本プロジェクトに参加する教師のためのワークショップ

プ、デモンストレーションを企画した。2013 年 4 月にフィリピン・セブ島・ビサヤ地域日本語教師会 (Association of Nihongo Teachers in the Visayas : ANT-V) 主催の 2nd Japanese Language Education Conference in CEBU で中等教育の日本語教師を含むフィリピン人日本語教師向けのコースデザインのあり方について講演を行った。さらに、教師が情報交換を行うためにポータルサイト (Moodle : <https://lms.katoyukari.net/>) を立ち上げ、国内の高等学校で帰国生教育に当たる日本語教師の参加を募った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

(1) Yukari Kato (2012) Practice of Teaching Community to Promote Peer Review for Quality Assurance, International Journal for Educational Media and Technology, vol. 6, pp. 51-60 (査読有)

(2) 加藤由香里 (2012) 高等教育における内部質保証に向けた授業ピアレビューの実践, 教育システム情報学会誌, vol. 29, No. 1, pp. 63-68 (査読有)

[学会発表] (計 20 件)

① Yukari Kato (2013) Organizing a Learning Community for Japanese Language Teacher Education, SITE 2013, New Orleans, USA (2013 年 3 月 25 日-29 日)

② 加藤由香里 (2013) 高等教育における教育実践の評価者としての FDer の役割, 教育システム情報学会研究会 (教育の情報化と情報教育) (於山口大学, 2013 年 3 月 16 日)

③ 加藤由香里 (2013) 国内外の日本語教師の持続的成長を支援する e ポートフォリオ, 第 19 回大学教育研究フォーラム (於京都大学 2013 年 3 月 14 日)

④ 加藤由香里 (2013) バーチャルコミュニティにおける国内外の日本語教師の交流活動, 電子情報通信学会 ET 研究会 (於東京農工大学, 2013 年 1 月 12 日), 信学技報, pp. 51-55

⑤ 藤川美穂, 加藤由香里, 古屋憲章 (2012) 省察的実践のための教師学習コミュニティ成立条件, 日本教育工学会研究会 (於東京学芸大学, 2012 年 12 月 15 日)

- ⑥加藤由香里 (2012) 国内外で活動する日本語教師の情報リテラシー調査, 日本教育メディア学会研究会 (於茨城大学, 2013年12月8日)
- ⑦Yukari Kato (2012) Virtual Community for Professional Development of Japanese Language Teachers, 5th edition, International Conference ICT for Language Learning, Florence, Italy(2012年11月15日-16日)
- ⑧加藤由香里 (2012) 国内外の教師交流ネットワークを活用した日本語学習コンテンツの開発と評価, 私立大学情報教育協会, (於アルカディア市ヶ谷, 2012年9月6日)
- ⑨加藤由香里 (2012) 日本語教師の実践を検証するeポートフォリオ, 第19回 日本教育メディア学会年次大会 (於東北学院大学, 2012年9月1日)
- ⑩Yukari Kato (2012) Learning Community to Encourage Professional Development of Japanese Language Teachers, 第5回 CASTEL-J (Computer Assisted Systems for Teaching and Learning Japanese), Nagoya University of Foreign Studies(2012年8月20日-22日)
- ⑪ 加藤由香里・古屋憲章・藤川美穂 (2012) 日本語教師の成長を支援する学習サイトの運営, 第5回 CASTEL-J (Computer Assisted Systems for Teaching and Learning Japanese), Nagoya University of Foreign Studies(2012年8月20日-22日)
- ⑫ 加藤由香里 (2012) 日本語教師支援のための情報リテラシー学習サイトの開発, 日本語教育国際研究大会, 名古屋 (2012年8月17日-20日)
- ⑬ Yukari Kato (2012) FD Commons to Enhance the Culture and Teaching and Learning as Collaborative Practice, Ed-MediaI2012 (Virtual Presentation), Denver, Colorado, USA (2012年6月26日-28日)
- ⑭ 加藤由香里 (2012) 日本語教師の情報活用を支援するeティーチング・ポートフォリオの開発, The Fourth N.E.A.R. Language Education Conference, Niigata, Japan (2012年5月26日)
- ⑮丁愚錫, 加藤由香里, 河路由佳 (2011) 韓国話者のためのマルチメディアを利用した初級日本語アクセント教材, 第18回日本メ

ディア教育学会年次大会(於 国際基督教大学, 2011年11月6日)

- ⑯Yukari Kato (2011) Teaching Commons to Promote Self-Reflection and Lesson Study for Professional Development, ICoME2011, Seoul, Korea (2011年8月26日-28日)
- ⑰加藤由香里 (2011) 教育的な議論を深めるツールとしてのティーチング・ポートフォリオ—日本語教育の教授ノウハウを他分野との協力・連携へどのように活かすか—, 日本語教育学会秋季大会 (於 米子コンベンションセンター2011年10月9日)
- ⑱ 加藤由香里 (2011) 高等教育の内部質保証に向けた教員と学生による授業レビュー実践, 教育システム情報学会第36回全国大会, 教育システム情報学会第36回全国大会講演論文集(於 広島市立大学, 2011年8月31日-9月2日)
- ⑲ 加藤由香里 (2011) 海外赴任準備としての日本語教師のための情報リテラシー教育の実践, 教育システム情報学会第36回全国大会, (於 広島市立大学, 2011年8月31日-9月2日)
- ⑳ Yukari Kato (2011) Building Commons to Improve Teaching and Learning for Quality Assurance through Peer Review Project, ICALT2011, Athens, GA, USA (2011年7月6日-8日)

[図書] (計2件)

(1) 加藤由香里 (2012) 「12. 教育工学・教材工具」近藤安月子・小森和子(編著)『研究社日本語教育事典』pp.247-258, 研究社

(2) 加藤由香里 (2012) 「スーパーバイザーの役割」, 大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会(編著), 『実践ティーチング・ポートフォリオスターターブック』, NTS, pp.105-107.

[その他]

ホームページ等

<http://www.katoyukari.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 由香里 (KATO YUKARI)

東京農工大学・大学教育センター・准教授

研究者番号: 90376848